

第3章

自治体の意識とトップスポーツ組織の特徴・活動との関連性

本章では、第1章および第2章でみてきた調査データと、2018年度に当財団で実施した、トップスポーツ組織（チーム等）が地域（ホームタウン）で実施する地域活動についての調査データとを突き合わせて（突合させて）分析した結果を報告します。

- ・3-1項では、トップスポーツ組織の地域活動が、自治体の満足度・重視度・期待度といかに関連しているかについて確認しました。
- ・3-2項では、自治体の満足度が、トップスポーツ組織形態といかに関連しているかについて考察します。

※ 2018年度における各トップスポーツ組織（チーム等）の活動と2019年度における自治体の認識を突合させることに関して、両者の認識が時間的にずれているという指摘もあるかと思います。本考察ではそうした認識の時間的ずれがそれほど分析結果に致命的な影響をもたらすものではないとの仮定をしております。

※ 2018年度調査 <https://www.ymfs.jp/project/culture/survey/012-topsports/>

3-1. 考察編で採用した「突合データ」

自治体の意識とトップスポーツ組織の特徴・活動との関連性をみることで、今後、地域におけるスポーツ振興のヒントや切り口が見えてくると考える。そこで、各組織の特徴（例：組織形態やチームの戦力）や地域活動の実態（例：実施量）と自治体の意識に関して、対となるデータの抽出を行い、分析を試みた。

具体的には2018年に実施したトップチームを対象とした調査に回答いただいたチーム98チーム、および2019年に実施した自地域にチームが活動する自治体を対象とする調査で回答いただいた278チームに関して、2018年・2019年のデータを突合し、いずれの調査でも回答いただいたチームを抽出し考察編で使用するデータとして採用した。

2018年実施 トップチーム対象調査

自チームの地域活動の実態

98チームが回答

2019年実施 自治体対象調査

自治体内にあるチームの地域活動に関する意識

200の自治体が
278チームに対し回答

突合

※自治体内に複数チームがある場合はそれぞれ回答

98チーム

278チーム

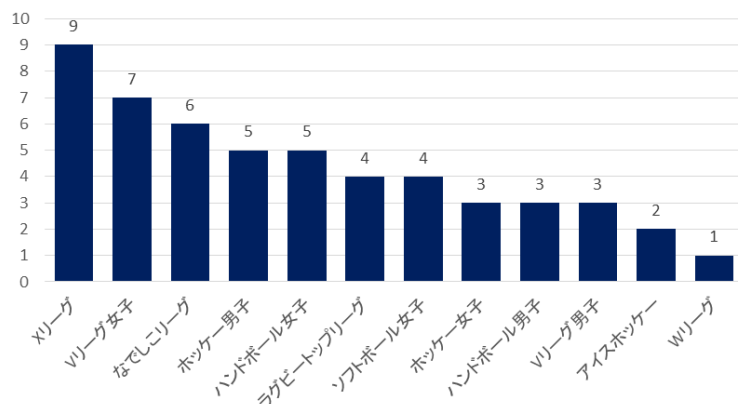
両調査で回答のあったチームを抽出

52チーム

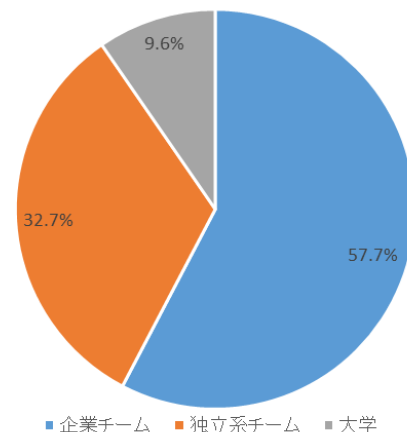
3-1.「突合データ」の概要

- 2018年度調査ではJリーグ、NPBを調査対象としておらず、突合データのサンプルにはJリーグとNPBのチーム等は含まれていない。
- 突合ができたチームは、多い順から、Xリーグ、Vリーグ女子である。
- 運営形態でもっとも多いのは企業チームであり、独立系チーム、大学の順となった。
- トップリーグの中での順位としては上位（全クラブ数の1/2位以上）のチームが50%、下位が38.5%である。下部リーグのチームも含まれていた。
- チームが所属する都市は、82.7%が大都市（56,996人*中央値以上の自治体）であった。

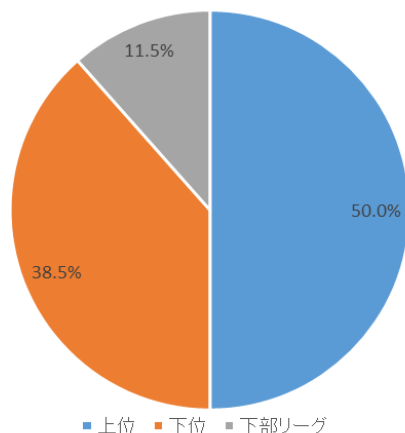
リーグ種別 n=52 ※2018年度調査ではJリーグ、NPBを含まない



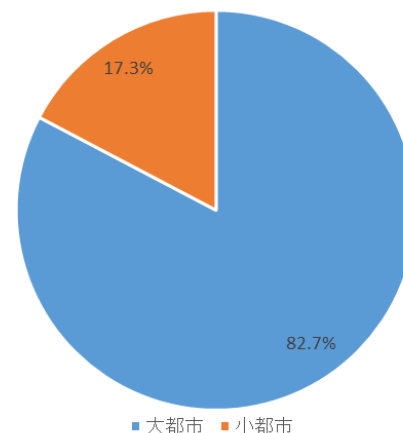
運営形態 n=52



強さ n=52 ※2019年リーグ順位で区分

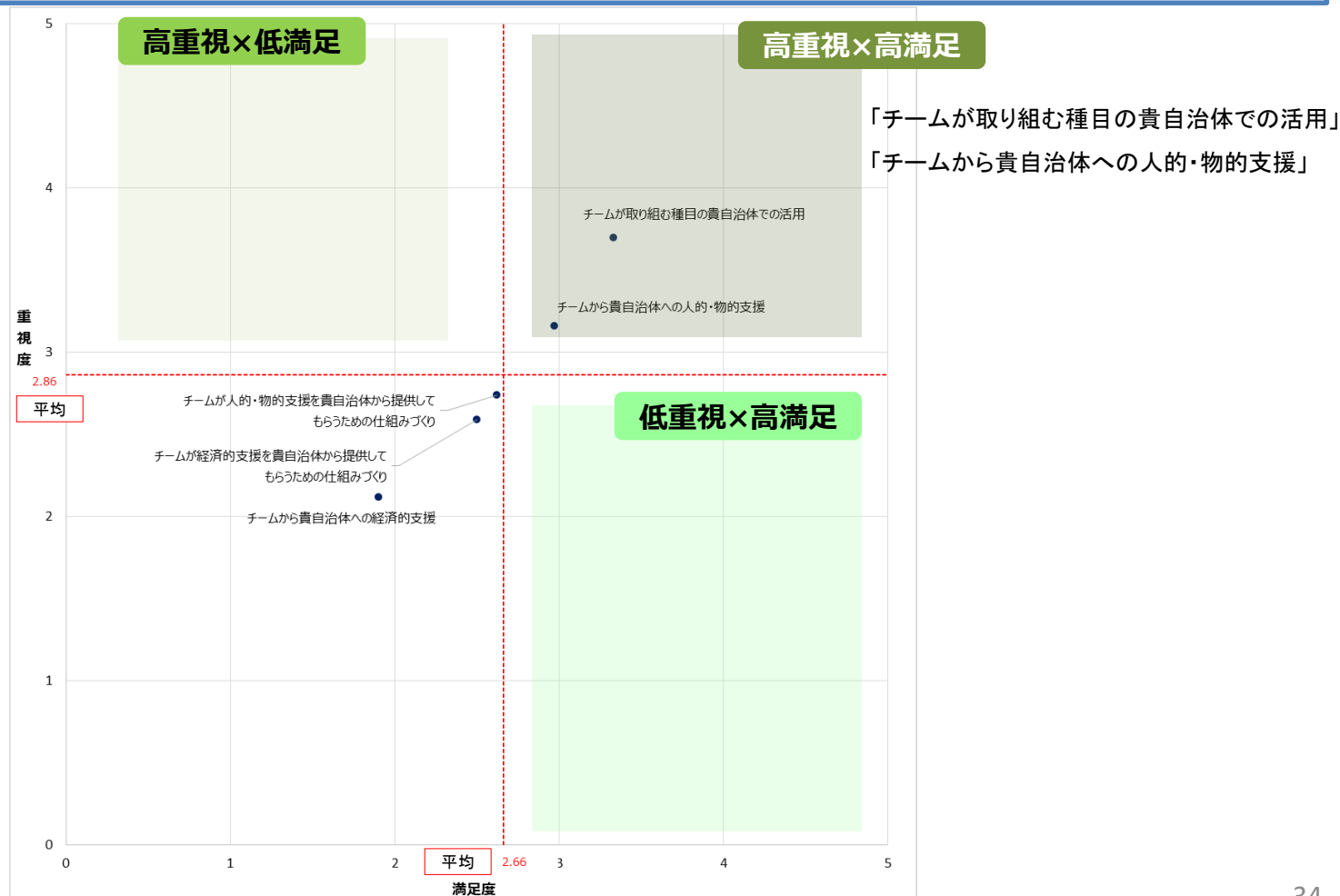


都市規模 n=52 ※人口の中央値をとり大都市・小都市に区分



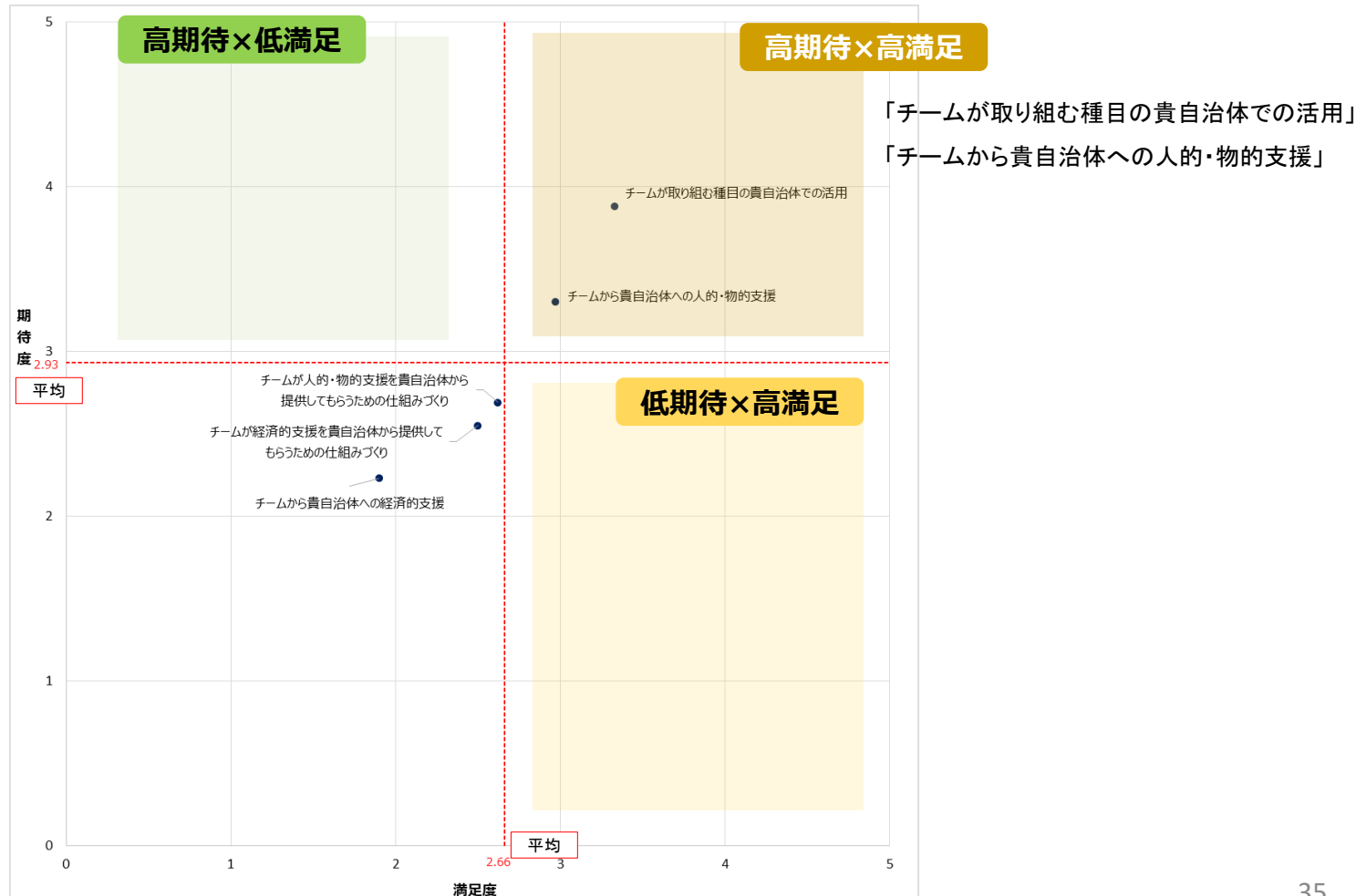
3-1-1. トップスポーツ組織が地域で実施する活動に関する「重視度」×「満足度」

- 主な地域活動（5項目）に関して重視度と満足度との関係を見ていく：
 - ✓ トップスポーツ組織が地域で実施する活動に関する重視度×満足度について、「チームが取り組む種目の貴自治体での活用」、「チームから貴自治体への人的・物的支援」が該当。
 - ✓ 『低重視×高満足』は該当がなかった。
 - ✓ 『高重視×低満足』も該当がなかった。



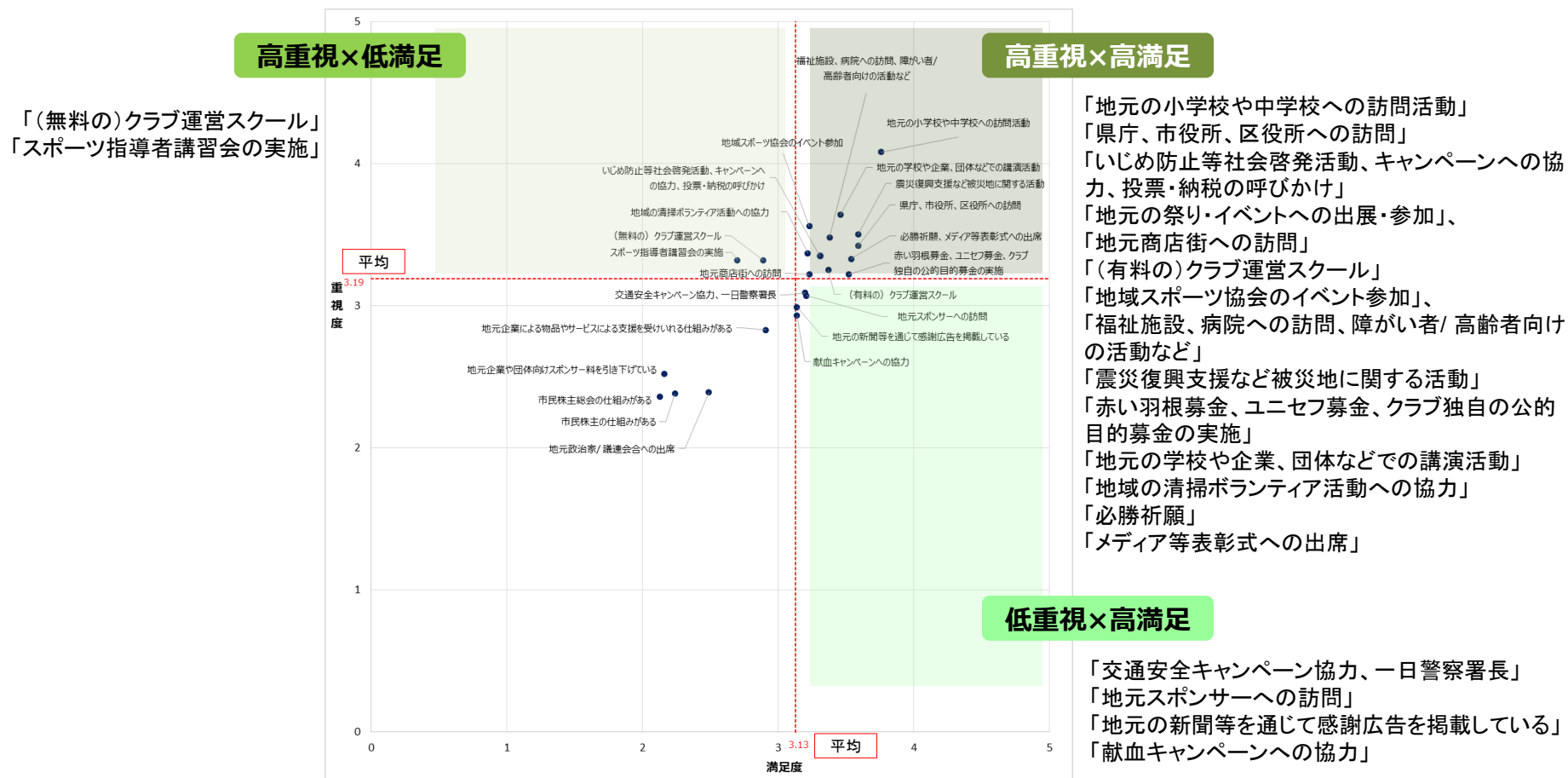
3-1-2. トップスポーツ組織が地域で実施する活動に関する期待度×満足度

- 主な地域活動（5項目）に関して期待度と満足度との関係をみていく：
 - ✓ トップスポーツ組織が地域で実施する活動に関する期待度×満足度について、『高期待×高満足』は「チームが取り組む種目の貴自治体での活用」、「チームから貴自治体への人的・物的支援」が該当。
 - ✓ 『低期待×高満足』は該当がなかった。
 - ✓ 『高期待×低満足』も該当がなかった。



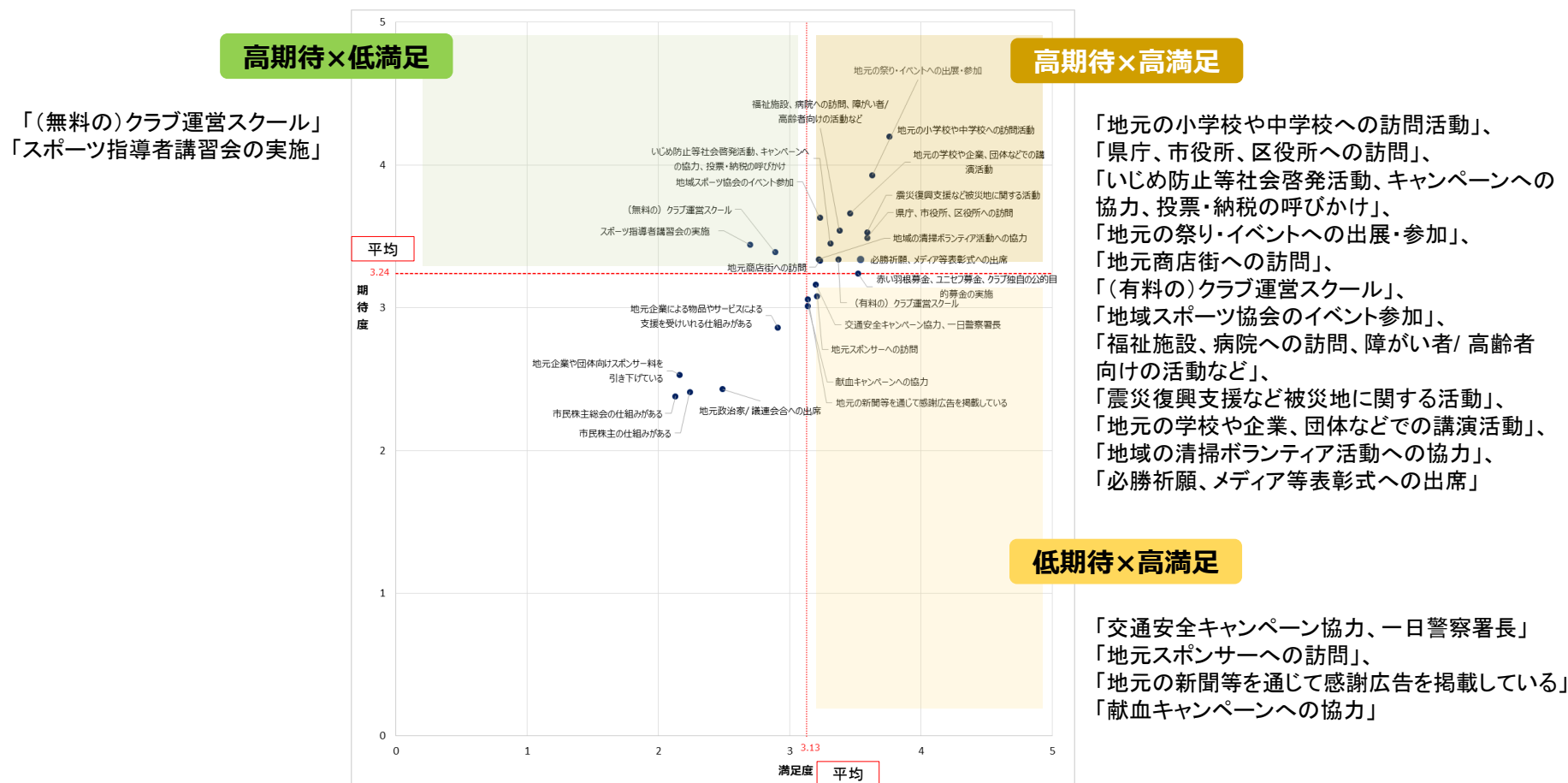
3-1-3. トップスポーツ組織が地域で実施する活動に関する重視度×満足度

- 具体的な地域活動（24項目）に関して満足度と重視度の関係をみていくと：
 - ✓ 『高重視×高満足』は、「地域の小学校や中学校への訪問活動」、「県庁、市役所、区役所への訪問」、「いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ」、「地域の祭り・イベントへの出展・参加」など14項目が該当。
 - ✓ その一方で、『低重視×高満足』は、「交通安全キャンペーン協力、一日警察署長」、「地元スポンサーへの訪問」、「地元の新聞等を通じて感謝広告を掲載している」「献血キャンペーンへの協力」が該当。
 - ✓ 『高重視×低満足』では、「（無料の）クラブ運営スクール」、「スポーツ指導者講習会の実施」が該当。



3-1-4. トップスポーツ組織がホームタウンで実施する活動に関する期待度×満足度

- 具体的な地域活動（24項目）に関して満足度と重視度の関係をみていくと；
 - ✓ 『高期待×高満足』は、「地元の小学校や中学校への訪問活動」、「県庁、市役所、区役所への訪問」、「いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ」、「地元の祭り・イベントへの出展・参加」等12項目が該当。
 - ✓ 『低期待×高満足』は「交通安全キャンペーン協力、一日警察署長」、「地元スポンサーへの訪問」、「献血キャンペーンへの協力」、「地元の新聞等を通じて感謝広告を掲載している」が該当。
 - ✓ 『高期待×低満足』では、「（無料の）クラブ運営スクール」、「スポーツ指導者講習会の実施」が該当。



3-1-5. 考察：有料スクールと無料スクール・指導者講習会の満足度の差について

- 「チームが取り組む種目の貴自治体での活用」は、重視度・期待度・満足度共に高い値を示している。(3-1-1,3-1-2) その中でもクラブが運営するスクールについては、プログラム（有料・無料・指導者向け）により満足度に差が生じた。この差について、限られたデータ数ではあるが、分析を試みた。調査データに基づくと、その原因のひとつとして推定されるのは、有料スクールと比べると上記2項目の回数が少ないということである。その他、本調査でカバーはできていないが、実施内容の質に違いがある可能性も考えられるだろう。今後の調査課題としたい。
- なお、「（有料）クラブ運営スクール」の最大回数が800回とあるが、補足調査をしたところ当該チームは複数の教室を運営していることがわかった。おそらく、そうした複数教室を総合したデータを回答しているものと思われる。

※自治体から回答が得られたもののうち、チーム側が実施回数を回答しているものを抽出

	有効突合 サンプル数	重視度 (平均)	満足度 (平均)	平均回数 /年	最大回数 /年	最小回数 /年	標準偏差 (回数)
無料 スクール	8	4.00	2.62	5.38	15	1	4.0
指導者 講習会	4	3.50	2.50	1.75	8	1	0.8
有料 スクール	6	3.50	3.50	211.67	800	20	269.8
全体平均 (中央値)	-	3.24	3.13	-	-	-	-

3-2. チームの形態と自治体側の満足度との関係性について。

- 自治体の満足度は、チーム側のどのような要因によって影響されるのかについて検討した。
- 満足度の平均（突合できたもの）は、大学型では低いけれども、独立系と企業系では高くなっている。

チーム形態別にみた各変数の記述統計

チーム形態	有効突合 サンプル数	突合できた 活動数(平均)	突合できた 満足度(平均)
企業系	27	4.56	3.20
独立系	15	6.53	3.26
大学系	5	3.60	2.26

（参考）

強さ：調査前年のリーグ順位が「上位」のサンプルは、企業系、独立系、大学系でそれぞれ12/27、8/15、3/5であった。

都市区分：人口の中央値よりも多い「大都市」のサンプルは、企業系、独立系、大学系でそれぞれ23/27、11/15、5/5であった。

（参考情報）

分散分析の結果、確かに自治体の満足度の平均と有意に関連しているのは、チーム形態だということがわかった。しかし、チーム形態が自治体の満足度に影響している、という因果関係までは分析から言えなかった。突合できた満足度（平均）を被説明変数として、チーム形態、強さ、都市区分（それぞれダミー変数）を説明変数として重回帰分析を実施したが、有意な結果は得られなかった（結果は省略）。

チーム形態ごとの、突合できた満足度を分散分析した結果

変動要因	変動	自由度	分散	観測された 分散比	P-値	F 境界値
グループ間	4.118851	2	2.059426	2.645533	0.082235	3.209278
グループ内	34.25198	44	0.778454	-	-	-
合計	38.37083	46	-	-	-	-

■ 主な地域活動（5項目）に関して、重視度・期待度と満足度との関係について。

1. 「チームが取り組む種目の貴自治体での活用」、「チームから貴自治体への人的・物的支援」が「高重視×高満足」「高期待×高満足」に該当した。

■ 詳細な地域活動（24項目）に関して、重視度・期待度と満足度との関係について。

1. 「地元の小学校や中学校への訪問活動」、「県庁、市役所、区役所への訪問」、「いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ」、「地元の祭り・イベントへの出展・参加」など多くの項目は『高重視×高満足』『高期待×高満足』となった。
2. 『高重視×低満足』『高期待×低満足』となったのは、「（無料）クラブ運営スクール」と「指導者講習会」である。低満足となった理由として実施回数の可能性が考えられる。
3. また、自治体の満足度に関して、独立系と企業系は、大学系に比べて高くなっていることがわかった。

- 松橋崇史, & 金子郁容. (2007). スポーツ組織マネジメントにおける地域コミュニティ戦略—Jクラブの事例研究—. スポーツ産業学研究, 17(2), 39-55.
- 公益財団法人日本プロサッカーリーグ. (2015). 『Jリーグ選手等ホームタウン活動調査報告』 (2021年3月18日アクセス.
https://www.jleague.jp/docs/aboutj/hometown/2015-hometown_1.pdf)